


<http://www.shiraishi-keiko.net> e-mail info@shiraishi-keiko.net

民主党・無所属クラブ

区政レポート

白石けい子

練馬区貫井育ち、高松在住。昭和29年生。練馬二小・貫井中・都立第四商卒。保育士・社会福祉任用主事。NPO法人ケアステーションぽかぽか理事長。「保育&介護」施設を高松にて提供中。福祉現場の声を届けるため、平成23年5月～二期目の区議会議員活動を開始した。

号外

発行 民主党・無所属クラブ
練馬区豊玉北6-12-1西庁舎6F
Tel 03-3993-1111(内7621～5)



沈黙……久之浜第一幼稚園(福島県いわき市久之浜町)
海が見える、潮の香が漂うちびっ子の園。もう嬌声はどこからも聞えない

——東日本大震災 現地視察からの報告——

東北大震災から二カ月。被災地の人たちから伝え聞く“現状”とマスコミが報じるものには、微妙なずれ違いが感じられた。首都圏が未曾有の災害に見舞われたら、練馬はどうするのか? 「保育&介護」……福祉の現場に身を置き、その声を区政に反映させるためには、真実を「見て・訊いて」おかなければならない。そこで五月中旬、地震、津波、原発、風評の四重苦にあえぐ福島県へ走った。

報じられなかった
「弱者の避難」と「現場の悲鳴」

救援物資受け取りに2時間

「事前の書類申請が無ければ……」?

東京から外環を経て東北道走り、埼玉、群馬と通過して福島に入る。

そして郡山JCTで磐越に乗り換える。ここで道路の事情がはっきりと変わった。震災の後遺症で高速道が至るところでうねっていた。

注意、工事中の標識の連続。車に弱い人には、しばらくお勧めできそうもない。

いわき三沢で下車。最初の訪問は、社会福祉法

人エル・ファロ(指定障害福祉サービス事業所自由空間)。

三沢ICからさほどの距離はないが、道路が寸断状態のところもあり、少々複雑な経路を辿ることになった。

自遊空間は鉄筋二階建て。3月11日、4月11、12日の3回の大地震で、コンクリート製の玄関ステップは大きく手前にかしんでいた。その脇を災害復旧応援車が……。



気が付けば、また災害復旧応援車が走っていた

弱者のための避難場所は？

「ともかく、現状、先行きの情報がなかなか届かなくて参りました」と口を切ったのは、八代施設長。

ガソリン不足の折には、以前より付き合ひのあった新潟方面の支援団体から二つのペットボトルに小分けされたガソリンを差し入れてもらい、それを一本一本詰めて乗り切った。

食糧難。これは支援物資を集積所へ自力で取りに行くしかない、と判断。貴重なガソリンを使って片道2時間。

しかし、到着してみると、「事前に書類申請をしていないからダメだ」と。

「何が集まっているのか、そうした情報もない。手ぶらじゃ戻



指定障害福祉サービス事業所『自遊空間』(いわき市植田町) 施設長・八代紀男氏と



NPO法人子どもの家(いわき市錦町) 菅波健市議会議員(右から3人目) も参加した



諏訪神社(いわき市久之浜町)。宮司の高木氏(右から3人目)を中心に復興の民間ネットワークが。(右)JDF被災地障がい者支援センターふくしま(郡山市)にて

次回の区政レポートより詳細記事を掲載

れない、腹をくくりました」と八代氏。今だから、苦笑いで語れるといった感じで、緊急時における行政側とのコミュニケーションの難しさをにじませていた。この自由空間には、発達障害の若者が生活しているが、地震、その後の不安定な環境によって状態の変化を起こしたという高齢者、障害者……こうした人たちの避難場所を考えておかなければならぬだろう。

「本音の吐き出し」は、

次は自由空間から車で10分ほどのところにある、NPO法人子どもの家。児童デイサービスでは地域の拠点的存在。

「避難所でいろいろなものを見た。行政は何事も平等に、と言うが、本当は弱者優先であるべ

き」との声がまず出た。さらに同席の菅波市議からは、「緊急時は議会を一本化して、行政側とコミュニケーションをとる必要がある」と、

現実な情報伝達の手段としていくつかの有効と思われる意見が出たが、詳細は次回に譲りたい。

次はいわき市で津波の直撃被害を受けた久之浜の諏訪神社へ。宮司の高木優美さんは金城清次さんと、民間の支援物資センターを切り盛りしている。情報の孤島と化した、我が久之浜を何とかせんと動き出さざるを得なかった。行政は「人手が足りなくて、手が回らない」と。今は都合よく支援物資センターに……と。



この地区は地震、津波、原発、風評、無情報で五重苦にうめいていたのだ。明けて郡山市の被災地障がい者支援センターふくしまを訪問。ここでも「行政は人手が足りない。検討します、ばかり。緊急時にこれで良いのか？」という現場の疑問の声を訊いた。

【後記】

「メジャーのマスコミ正社員は原発の50キロ以内には入らない」——こんな報道があった。本当なのか？ だから現地の細かいニュースが伝わって来ないのか？

今回は縁あって、郡山出身でアフガニスタンでの支援活動で知られ、平和、環境問題のスペシャリスト、植木宏氏がコーディネーター役を買ってくださいました。

おかげでジャストフィットの視察を敢行することができました。紙上から感謝いたします。各所で、再現していただいた驚くべきシーンと遭遇いたしました。マスコミでは報道されなかったこと、またかなりのへだたりがあったこと……。逆に沢山の貴重な教訓を得ることになりました。この情報はできるだけ多くの方に直接お伝えしたいと考えています。

▼出張報告会に出かけます。少人数でも構いません。ご一報いただければ、必ず時間を調整いたします。

▼第17期の練馬区議会がスタートいたしました。地域の防災問題は最重要テーマとして、議論されていくことは必至です。是非、傍聴でのご参加をお願いいたします。

▼本年度も定例議会四回行われます。終了ごとに今回の視察で得た情報を織り込んで、区政レポートを発行する所存です。頑張ってください。ご支援よろしくお願いたします。